

## カトリック山手教会月報

## やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地  
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第636号 2023年2月12日

## 絵本の中に見る福音

主任司祭 ミカエル鈴木 真

ご存じのように、わたしは子どものミサなどでよく絵本を使います。この季節、2月といえば節分。わたしは「鬼もの」の絵本が大好きです。毎年、灰の水曜日に横浜雙葉学園の小学校で1年生に話をしますが、難しい話は無理だろうと「灰」の意味と四句節のことをササッと話した後、「鬼もの」の絵本を4～5冊立て続けに読み聞かせて、ひいひい言わせてます(笑)。

「鬼」というのも不思議な存在で、その起源は、さまざまに言われますが、絵本の中では基本「悪者」です。でも、そんな鬼の存在を実に感動的な物語にした絵本が多いのも事実でしょう。不朽の名作であろう『ないたあかおに』や『おにたのぼうし』。共通しているのは、人に忌み嫌われる鬼、でも、中には、とても心優しく人間のことを思いやっている鬼もいる…という内容です。対して、あくまで悪者である鬼が、人間の子ども(たいていは小さな女の子)にぎゃふんと言わされて、トホホとなる物語も少なくありません。つまり、「強者」の代表である鬼が「弱者」である人間を思いやる、また、逆に「強者」の鬼が「弱者」の代表とも言える人間の小さな女の子にやり込められる…これって、とても福音的ですね。

そう考えると、このようなパターンの絵本は他にもたくさんあることに気づかされます。同じく絵本の中では「強者」であり「悪者」でもある、オオカ

ミヤキツネなど。そんなものたちが実は心優しくったり、逆に「弱者」である他の動物に負けちゃったり…現実にはあり得ないこと(?)を描くことで、実は絵本の中に置かれている「福音的要素」が輝いていることに、いつも感動します。

とは言え、わたしは根がヤクザというか不良から更生しきれてないというか…とにかく絵本を読み聞かせるとき、どうしても「悪者」役にはまってやりすぎます。以前、ある教会の「子どもミサ」で「オオカミもの」の絵本を読んだとき、あまりにオオカミの役を迫真の演技でやり過ぎたため、一人の子どもが「怖いよ～」と泣き出しちゃいました。周りの大人たちはみんな笑ってましたが、ミサ後に教会学校のリーダーたちから「子どもミサで子どもを泣かしてどうするんですか!」と、さんざん怒られました…。まったく、大人気ないですね。

懲りないわたしは、今年も灰の水曜日に横浜雙葉学園の小学1年生に、鬼もの5連発でひいひい言わせちゃおうと思っています。皆さんも「鬼もの」の絵本をご存じでしたら、ぜひ教えてください。